

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

日本の製造業の今後の戦略 (その1) 藤本 隆宏 (東京大学ものづくり経営研究センター長)

1. 産業と企業と現場で評価は違う。産業は自動車などすり合わせ型が好調、テレビなどモジュラー型が不調だ。設計の比較優位の見きわめが重要だ。産業は浮沈はつきものだが、テレビがダメなら全部ダメという悲観論は経済的な根拠のない俗論だ。企業の本社経営も玉石混淆 (すぐれたものとつまらないもの) の様相だ。現場や技術の強さを生かし切れない本社もまだ多い。おおむね、潮目を読み切る社長がいる会社は元気、空気を読む社長のところはダメな傾向がある。
2. 国内の工場の生産性は海外拠点より圧倒的に高い例が多い。こうした企業では、今や日本が最適立地といえるケースが増えている。新興国の賃金が高騰し、グローバル能力構築競争は激化している。ポスト冷戦期の経済情勢を長期的に見るなら、国内に高生産性の「戦うマザー工場」を持たねば、能力移転の不足で海外拠点の生産性向上が滞るだろう。国内に生産性の高い工場を残しつつ、海外での市場立地も進める「二本足で立つ経営」が望ましい。
3. 短期のコスト計算のみに基づき、高生産性だが高コストの国内拠点を閉鎖してきた日本企業は、海外拠点の競争力も落ちて苦しくなる。しかし、国内の強い現場を復元する動きもあり手遅れではない。あらゆる能力構築する現場は、生き残る確率は高まった。「グローバル能力構築競争」の時代が来つつある。

(参考:「週刊東洋経済」2015年5月2・9日号)

経営者のための理念・哲学

「自利利也 公私一如」(住友化学)

石飛 修 (住友化学会長)

1. 今年 10 月 4 日に開業 100 周年を迎える住友化学。そこに培われた多彩な先端技術の集積と住友のDNAに色濃く織り込まれた「自利利也 公私一如」の精神。前身である住友肥料製造所は 1913 年、住友総本店の直営部門として現在の愛媛県新居浜市で誕生した。以来、社会が抱える困難な課題を技術の力で克服し、事業を通じて国や地域の発展に貢献するという基本精神や使命感は、当社の経営理念 (自利利也 公私一如) となっている。
2. それはまた、400 年にわたって住友の事業に連綿と流れる社会からの信頼を第一に重じる姿勢と、住友の事業は自身を利するとともに、国家や社会を利するものでなくてはならない、という考え方と通じている。

(参考:「WEDGE」:2015年7月号)

新規成長分野

増加する内需に根ざした創業

1. 内閣府のまち・ひと・しごと創生本部は 4 月 21 日、地域経済分析システム (RESAS「リーサス」) を公開した。それによると、2009 年から 2012 年の 3 年間で創業比率が最も高かったのは滋賀県竜王町。2 位は徳島県藍住町、3 位は沖縄県豊見城市だった。創業比率が高かった理由について竜王町は「2010 年に三井アウトレットパーク滋賀竜王が開業したため」と推測する。藍住町は 2011 年に徳島県最大の大型商業施設ゆめタウン徳島が開業した。豊見城は那覇空港から一番近いビーチが売り物で、内外の観光客を集めている。
2. これらのデータから、内需に根ざした創業が増えている実態が読み取れる。従来であれば大企業の工場を誘致することが雇用を増やす効果が高いとされてきたが、「地の利」を生かして近隣の買い物客や内外からの観光客を呼び込めば、域内の企業数は増え、雇用も増えることが実証された。

(参考:「日経ビジネス」2015年4月27日・5月24日号)

古典に学ぶ

夢と現実 (その1)

(解説) 鄭の国の話。ある男が山でたきぎをとっていた。そこへ何をおどろいたか鹿が一頭とびだした。男は、これをうち倒した。人に見られてはと、あわてて水のかれた池にかくし、上に草をかぶせておいた。ところがうれしさのあまり、かくし場所を忘れてしまい、とうとう夢だったことにしてしまった。道々ブツブツひとりごとをいいながら家に帰った。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)